

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 ねんず
①がまんする ②努力する ③遠慮する ④悲観する
- 2 おぼゆ
①ためらう ②交際する ③思われる ④思い悩む
- 3 あく(飽く)
①こだわる ②満足する ③困る ④飽きる
- 4 うつくし
①上品だ ②かわいらしい ③滑稽だ ④目新しい
- 5 ありく
①走り去る ②沈む ③動き回る ④浮かぶ
- 「B」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。
- 6 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる(古今和歌集)
(訳) 秋がやって来たど、目にははっきり見えなけれど、風の音に(もう秋なのだ) 自然と「」たことだ。
①気づい ②思い出し ③感じ ④身に染み
- 7 とかくしつつののしるうちに、夜更けぬ。(土佐日記)
(訳) あれこれしながら「」うちに、夜が更けた。
①ひそひそ話をする ②うとうととしている ③大騒ぎする ④罵倒し合う
- 8 時々も見え給へ。(源氏物語)
(訳) 時々「」てください。
①姿を見せ ②心を開い ③歌を贈っ ④優しくし
- 9 男、大和にある女を見て、よばひてあひにけり。(伊勢物語)
(訳) ある男が、大和の国に住む女を見て、求婚して「」た。
①結婚し ②面会し ③相談し ④協力し
- 10 宮、例の、しのびておはしまいたり。(和泉式部日記)
(訳) 宮は、いつものように、「」ていらつしやった。
①用意し ②もの思いをし ③振る舞っ ④人目を避け
- 11 鳥獣もなき所にて一人食ひみたり。(宇治拾遺物語)
(訳) 鳥や獣もない所で一人食っ「」た。
①て寝 ②てしまっ ③てい ④て座っ
- 12 わびしと思ひありき給ふ。(源氏物語)
(訳) 困ったと思ひ「」ていらつしやる。
①ふけっ ②つめ ③続け ④始め
- 13 明くるより暮るるまで、東の山ぎはをながめて過ぐす。(更級日記)
(訳) 夜が明けてから暮れるまで、東の山際を「」て過ぐす。
①じつと見つめ ②ぼんやり見 ③想像し ④思い出し
- 14 かなしからん親のため、妻子のためには、恥をも忘れ、盗みもしつべきことなり。(徒然草)
(訳) 「」ような親のため、妻子のためには、恥も忘れ、盗みもしかねないものである。
①うつつうしい ②寂しい ③いとしい ④恥ずかしい
- 15 死にけりと聞きて、いとみじかりけり。(大和物語)
(訳) 死んだと聞いて、本当に「」た。
①とても悲しかっ ②とてもうれしかっ ③たいそう安心し ④たいそう動揺し

15 「」

14 「」

13 「」

12 「」

11 「」

10 「」

9 「」

8 「」

7 「」

6 「」

5 「」

4 「」

3 「」

2 「」

1 「」

